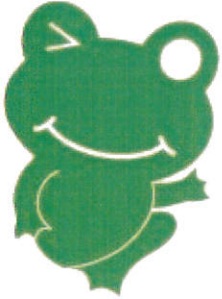


三ちゃん便り

Vol. 84



一言

さん
マスコット・三ちゃん

年間6棟だけの家造り



パチリ | さま邸。ベランダのFRP防水工事。雨漏りの原因になる場所なので
しっかりとした施工が必要です。

今月のトピックス

- ◎ ガマのひとりごと …… 土壁の話
- ◎ 大工の大さん …… おかげ様で
- ◎ 「ワン」「ニャー」「ケロ」
にぎやか動物日記 …… タント階段から落ちる
- ◎ 千の夢 …… 自分の時間を過ごす場所



土壁の話

京都に「聚楽」という小学校がありました。豊臣秀吉の建てた聚楽第に因んだ校名でした。

京都の土壁は京壁ともいわれています。西陣で採れる粘土を使った土塀は、京壁の中でも、土壁の代名詞とされる壁で、聚楽第に因み聚楽壁といえます。色は茶褐色です。

ガマ（左）とガマの弟



土壁が日本に伝わったのは飛鳥時代です。法隆寺の壁に一部が今も残っています。奈良時代には土工司（つちのたくみのつかさ）という役職までできました。

純和風建築は、壁の小舞下地の土壁づくりから始まります。小舞（こまい）というのは竹をメッシュ状に編んだ物で、柱と梁の枠の中に張っていきます。竹だけでは強さが不足しますので、間に貫（ぬき）を差し入れ、竹や貫に麻や棕櫚の縄を巻きつけます。

こうして作った小舞に壁土を付けていきます。粗塗り、中塗り、仕上げ塗りの順で土を付けて、壁を作っていくのです。壁土は乾くと収縮してひび割れます。粗塗りが乾くとひび割れを直し（大直しという）、中塗りをし、そして、目の細かい土と藁で作った土で仕上げ塗りをします。

土壁は、表面がざらざらした砂壁ですが、仕上げ材として消石灰に糊や（ふのり）粘土などと麻などの植物繊維から作った漆喰（しっくい）を塗り、すべすべした漆喰壁もできます。

★今では珍しい土壁の家

私が土壁の家を建てさせて頂きましたのは、もう15年も前のことで、真備のA原邸でした。私が今でもお願いしている有元左官は、岡山県でも3本の指に入るほど、腕の良い職人ですが、「泥壁の家はあの家が最後じゃったなあ〜」。逢った時に、慨嘆するのが二人の挨拶代わりとなっています。

最後に少し聚楽第がらみで脱線します。京都で私の育った所の町名は「甲斐守町」といいました。官兵衛の息子の黒田長政が、秀吉から屋敷地として拝領した場所で、その頃の長政の役職の「甲斐守」から来た町名です。「甲斐守町」の一つ北の町内には、十五代楽吉左衛門（私の小中高の2年先輩）さんが住んでおられます。この「楽」という苗字は、聚楽第の瓦を焼いた褒美として、秀吉から瓦職人の初代吉左衛門が賜った苗字だと、私たちは聞いていました。だから、楽焼はロクロをしません。